

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 華陽フロンティア高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月6日(火) 13:30~15:10
- 3 開催場所 華陽フロンティア高等学校 仮設校舎管理棟通信制第2職員室
- 4 参加者

会長	安田 和夫	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
副会長	廣瀬 富久夫	本校同窓会 会長
委員	臼井 悟	鶴自治会連合会 会長 (欠席)
	木下 福太郎	本校卒業生 (欠席)
	田内 恵美	本校校友会 会長 (欠席)
	前田 貴子	地域創生キャリアプランナー
	松野 恵	本校PTA 会長 (欠席)
	南谷 東子	人権擁護委員
学校側	鶴飼 陽一郎	校長
	長澤 紀明	副校長
	松野 聡美	事務部長
	辻 昌宏	教頭(定時制課程)
	笠井 寛	教頭(通信制課程)

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和5年度 自己評価について

(2) 意見交換

○ 定時制課程について

意見1:就職試験で戸惑わない程度の、基礎的・基本的な学力は、最低限付ける必要がある。

また、アルバイトはコミュニケーション能力が身に付き、就職につながることもあるため、勧めた方がよい。

意見2:年々、色々な課題を抱えた生徒が入学してくるが、学校は上手く対応している。様々な事情から学習の空白期間があった生徒も、教職員が受けとめている。何のために高校で学ぶのか、何をしに大学へ進学するのかなど、生徒一人ひとりが自分の課題を見つけることが大切である。

意見3:ヤングケアラー等、新しい社会問題にも対応していかなければならない。

意見4:教員と生徒の関係がよい。本校に通い始めて救われた生徒の話聞き、学校の価値を知ることができた。

意見5:卒業生などを活用し、体験談を生徒に聞かせる機会などがあれば、教員とは違ったアプローチができるのではないかな。

意見6：最近の学校では、教員が先回りして生徒の面倒を見ているため、社会へ出てから上手くやっていけるのかが心配。逞しく生きる力や、自分で問題を解決する力を付けさせてほしい。

意見7：卒業後に生徒が外部の福祉機関とつながる方法など、困ったときにどのようにすればよいかを教える必要がある。

○ 通信制課程について

意見1：やる気があっても自学自習ができない生徒の中には、何を聞いたらよいか分からないという生徒もいるのではないか。メールなど生徒の身近なツールを使って、気軽に質問できるようにするとよい。

意見2：就労支援については、様々な外部機関があるので連携していくとよい。特に岐阜市は力を入れているので、卒業後の支援も見据えて活用するとよい。

意見3：レポートの添削コメントに励まされる生徒も多い。電子化は時代の流れに合ったよい対応である。生徒に寄り添った添削を続けてほしい。

意見4：ICT化が進み便利になっている一方で、教員の負担が増えていないか心配である。

意見5：学習活動や教育相談等において、近隣の大学と連携し、生徒への支援を充実させるとよい。

意見6：就労については、近視眼的になりがちだが、5年後10年後の「在りたい自分」を考えさせ、目的意識を高めることも必要である。

6 会議のまとめ

- ・今年度の取り組みについて、活発な意見交換を行った。
- ・本校の教育活動に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。
- ・委員の意見を来年度の取り組みに活かしていく。

※事前に欠席と連絡のあった委員からは、会議前に書面等にて意見を聴取済み。